

平成26年度我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

資源動向調査（ムロアジ類）

住友寿明・吉見圭一郎

資源動向調査のうち、ムロアジ類については和歌山県と共同で調査を実施し、本県は漁獲量調査及び魚体測定調査を行いデータを収集した。なお、本県で漁獲されるムロアジ類のほとんどがマルアジであり、マルアジを対象に調査を行った。

方法

漁獲量調査

徳島県でマルアジを漁獲する主な漁法は定置網であるため、紀伊水道及び太平洋（紀伊水道外域）の代表漁協における大型定置網及び小型定置網の漁獲量を調査した。

生物測定調査

小型定置網で漁獲されたマルアジについて、サンプルを得られた月に限り尾叉長を測定し、漁獲物の尾叉長組成を把握した。

結果

漁獲量調査

平成14～26年の年別漁獲量を図1に示した。平成26年の漁獲量は、豊漁だった昨年を下回る45トンだったが、平成14年以降では4番目に多かった。このうち、紀伊水道で漁獲されたものの割合は42%であり、昨年を上回った。平成26年と平年（平成14～25年の平均）の月別漁獲量を図2及び図3に示した。紀伊水道では平成26年1月に大量入網がみられた。その後平年並み程度で推移したが、7月と8月は平年を上回る漁獲量だった。太平洋では、平成26年3月と5月にまとまった漁獲がみられたが、6月以降は低調に推移した。平成26年のCPUE（kg/日・隻）は豊漁だった昨年を下回ったが、紀伊水道では平成14年以降4番目に多く、太平洋では5番目に多かった（図4）。

生物測定調査

紀伊水道では、1月と2月に尾叉長10.5～18.0cm、8～10月は尾叉長20.0～33.0cmのマルアジが漁獲された（図5）。太平洋では、3～6月にかけて尾叉長11.0～17.0cmのマルアジが漁獲された。

考察

資源状態

平成26年の漁獲量は前年の62%まで減少したが、平成14

年以降の資源水準としては中位であると考えられる。資源動向については、漁獲量、CPUEとも昨年より減少したため資源が減少傾向にある可能性も示唆される。しかしながら、平成14年以降の漁獲量は変動が大きく、来年以降横ばいまたは増加に転じる可能性もある。

資源管理の方法

定置網で漁獲される小型のマルアジは利用価値が低いいため安価で取り引きされている。このため、定置網に入網した小型魚の再放流が可能であると考えられる。

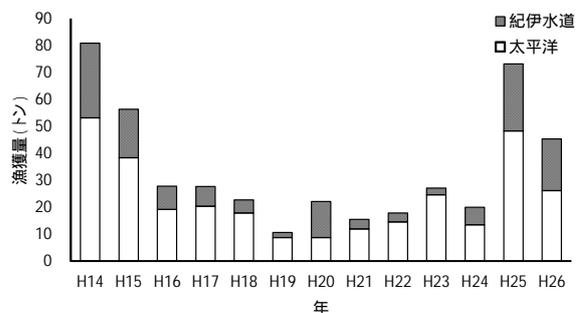


図1．代表漁協におけるマルアジの年別漁獲量

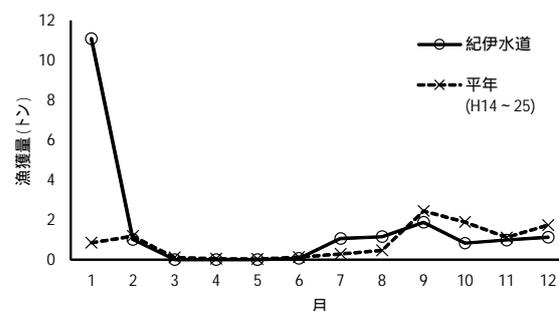


図2．紀伊水道の代表漁協におけるマルアジの月別漁獲量

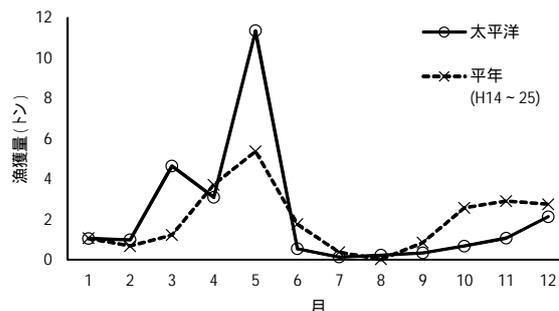


図3．太平洋の代表漁協におけるマルアジの月別漁獲量

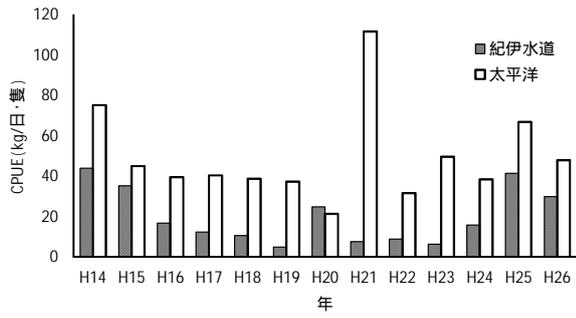


図4．代表漁協におけるマルアジのCPUE (kg/日・隻)

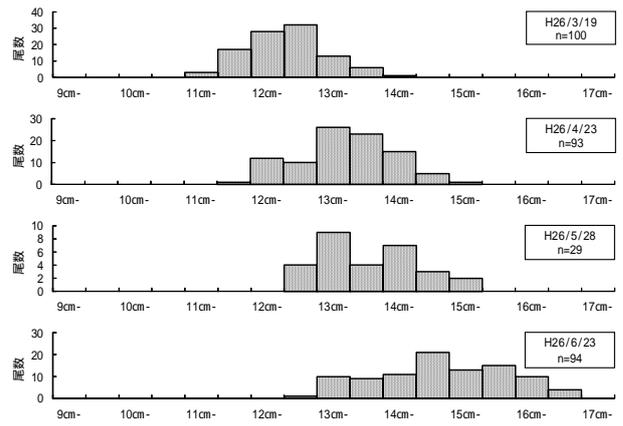


図6．太平洋の代表漁協におけるマルアジの尾叉長組成

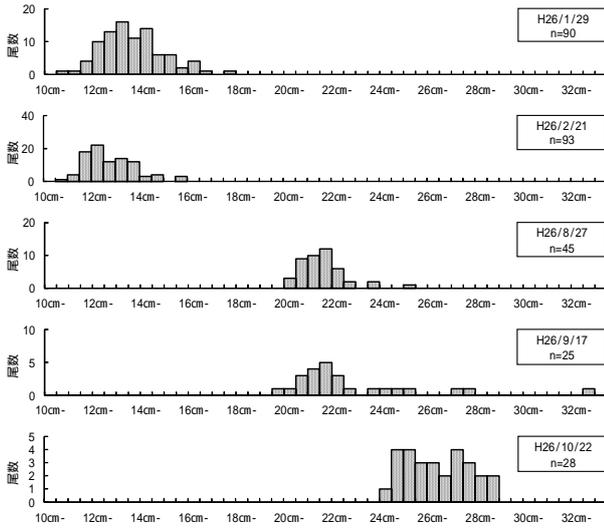


図5．紀伊水道の代表漁協におけるマルアジの尾叉長組成